

■『民主』という見えない突風が、政権選挙の勝利を民主党に導いた。初めて第一与党となる民主党への期待と不安が入り混じる中、連立政権樹立に向けて始動、国民が暮らしやすい社会づくりへの期待感が高まる

I. 支持政党の変化と投票行動（第8回目から第9回選挙後調査までの変化）

- 8回目から9回目までの間に、第45回衆議院選挙が実施され、民主党が300議席を越える歴史的な大勝利を収めた。直後の調査結果として、政党支持率では自民党支持率25.1%で0.7ポイントの減少。民主党支持率は40.3%で3.7ポイント増加、その他の政党は4.4%で2.6ポイントの増加、無党派は30.1%で5.3ポイント減少と、選挙結果同様、民主党という風が吹いた結果となった。
- 衆院選挙直後ということもあり、無党派の政党選択を行った結果、民主党、その他の政党が支持率を増加、3月の調査開始以来、民主党は最高の支持率、自民党は5月のゴールデンウィーク以降から一貫して支持率減少傾向が続き、今回最低の支持率となった。一方で無党派は減少したものの最終的には3割に留まり、無党派層において積極的な政党支持の態度変容はなかったと言えよう。
- 衆院選挙への投票参加は、民主党支持者95.8%、自民党支持者92.1%、無党派でも76.8%。自民党支持者は2.3%直前の結果から減少、民主党支持者は高い参加意向をキープしたまま選挙へ突入、無党派では6月頃から参加意向が漸増、結果的には70%後半代の結果となり、無党派層においても投票行動を起こすだけの話題性のある選挙であることを示している。

II. 選挙結果と今後の政権

- 第45回衆院選の小選挙区での投票結果は、民主党候補者55.5%、自民党候補者32.2%、その他の政党10.2%。第8回の選挙直前調査の結果から実際の投票までで、民主党、その他の政党が得票率を伸ばす結果となった。
- 比例区での投票は、「その他の政党」が5.8%から21.0%へ大きく増加したのが特徴的。小選挙区での投票と比例区での投票傾向は、首都圏の有権者全体で見ているため、選挙区による立候補者や政党が異なり、一概に結論づけできない。しかし、結果的に比例区において、その他政党へ投票傾向が高かったと言えよう。参考に、比例区における無党派の投票は約5割が「民主党」、約3割が「自民党」に投票している。
- 衆院選後の理想の政権のあり方は、民主党支持者、無党派では、いずれも「民主党、社民党、国民新党」の連立が、5割前後で「民主党の単独政権」の約3割を上回っており、単独政党政権への不安も窺える。自民党支持者では、「民主党単独政権」が前述の連立政権より高くなっており、民主党と社民党、国民新党との連立については、別の意味で懸念材料になっていると考えられる。
- 結果的には民主党大勝で終わった今回の衆院選であったが、小選挙区、比例区での投票行動から、必ずしも、民主党一辺倒ではなく、非自民という流れからの選択（＝民主の風現象）があったように考えられる。今後の希望する政権の形からも、「民主党単独政権」ではなく、連立政権がより強く望まれているように、民主党の政策実行力についての評価が定まっていない状況の中で、今後の真価を問われる船出といえる。

III. 今後の日本の将来と政府に期待する政策

- 民主党政権確定後、日本の将来について各政党支持者の展望をみると、民主党支持者では60.9%が「良い方向へ向かう」と回答する一方で、自民党支持者は約4割が「悪い方向へ向かう」と対照的な結果となった。無党派では「良い方向へ向かう」は24.8%にとどまり、わからないが約半数。支持する政党とは別に、民主党政権の力量が見えない状況では、日本の将来展望まで見切れていない有権者が3割以上いることにも注目したい。
- 政府に取り組んでほしい一番の政策内容は、いずれの支持層も「景気・雇用対策」が1位、「財政再建」「社会保障制度」のトップ3は変わらないが、順位としては、自民党は「財政再建」に、民主党、無党派は「社会保障制度」がより取り組んで欲しい内容となっている。
- また、自民党支持者では、「防衛・安全保障」が、民主党、無党派では「少子化対策」「公務員削減などの行政改革」に重きがおかれている点も支持層別での違いといえそうである。

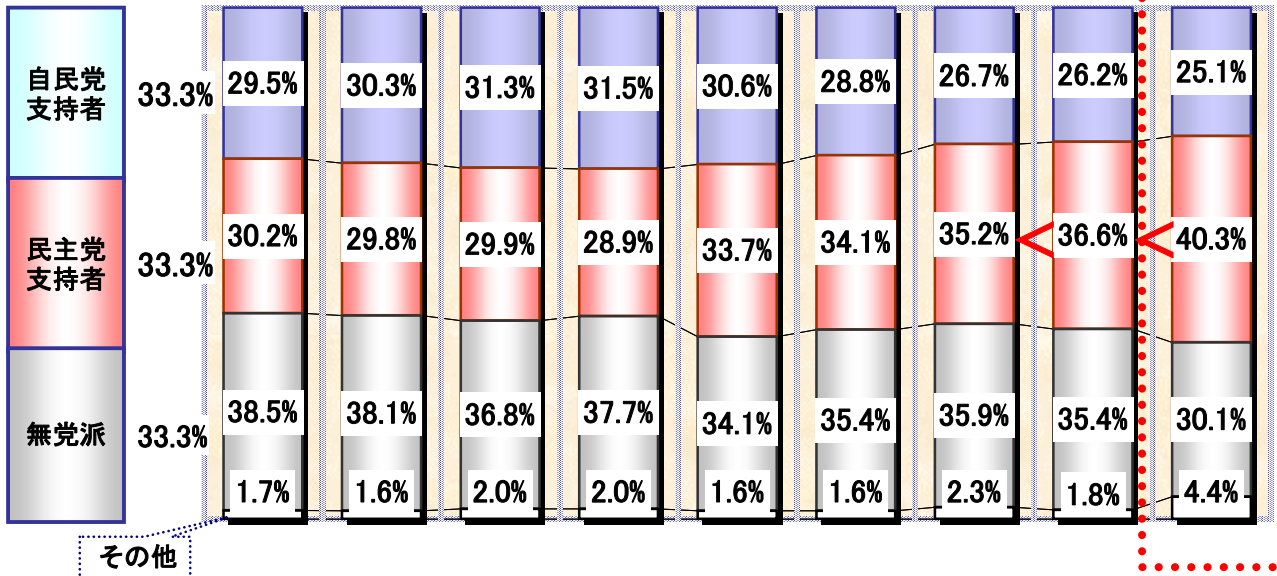
IV. <参考> 今回の選挙の情報源と最高裁判官への新任投票について

- 選挙に影響を与えた情報源は、「テレビ」と「新聞」がトップ2。民主党、無党派では、「テレビ」の影響はより強く影響を与えている結果となっているが、自民党では「新聞」の影響が僅かではあるが「テレビ」の影響を上回っている。
- 衆議院選挙毎に最高裁判所裁判官の信任投票を行う「最高裁判所裁判官国民審査」については、政党支持者による違いはなく、3割弱が「評価した上で投票」、約7割が「評価をせずに投票」という状況であり、事実上形骸化していると言えよう。最高裁判所裁判官を有権者が審査するための情報提供や制度そのものの理解を促すためにも、国民審査制度の見直しが必要と言えよう。

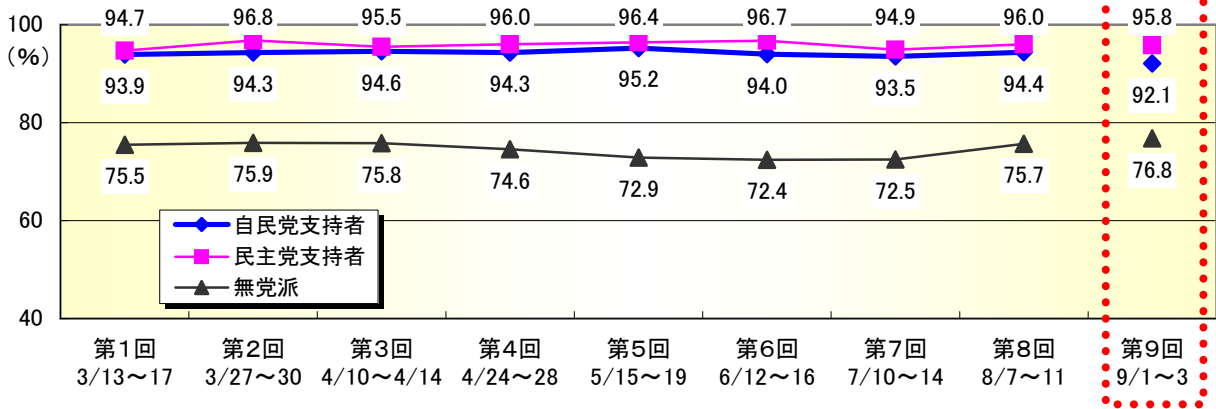
I. 支持政党の変化とその要因

支持政党変化の推移 (n=1,500)

【事前調査】 第1回 3/6~12 第2回 3/13~17 第3回 3/27~30 第4回 4/10~14 第5回 4/24~28 第6回 5/15~19 第7回 6/12~16 第8回 7/10~14 第9回 8/7~11 9/1~3



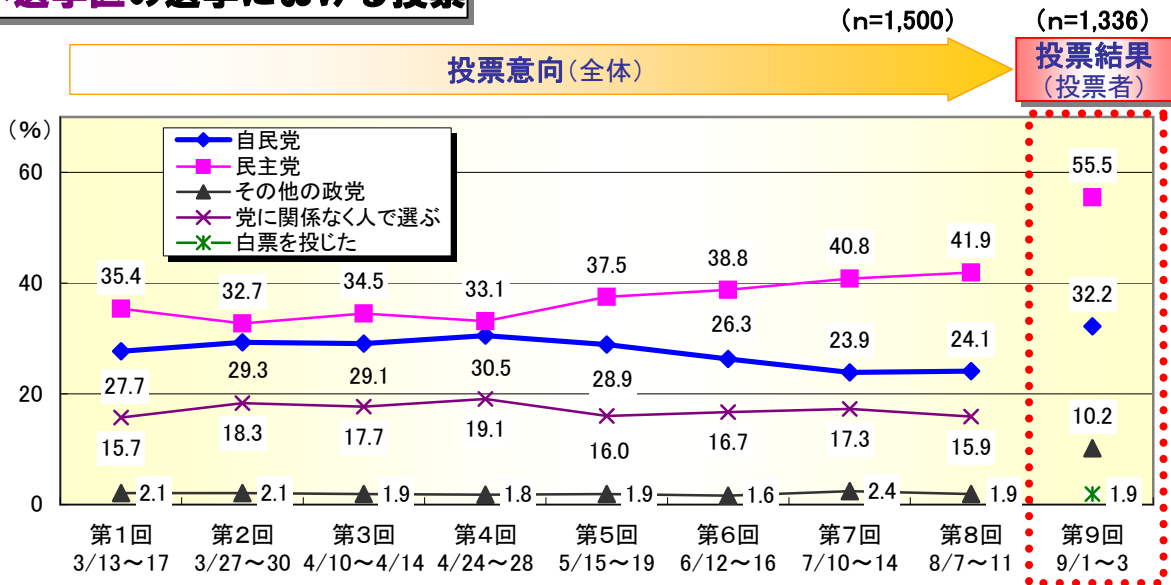
次回の衆議院選挙での投票行動 (必ず+多分投票に行く) (n=1,500)



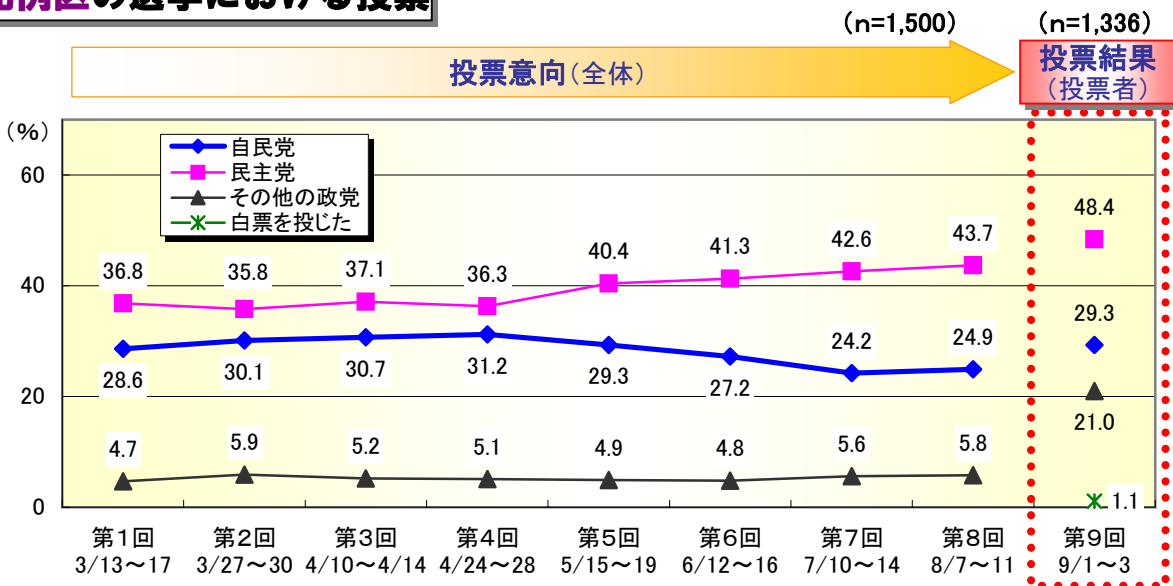
注) 第9回: 投票に行った+期日前投票した

II. 選挙結果と今後の政権

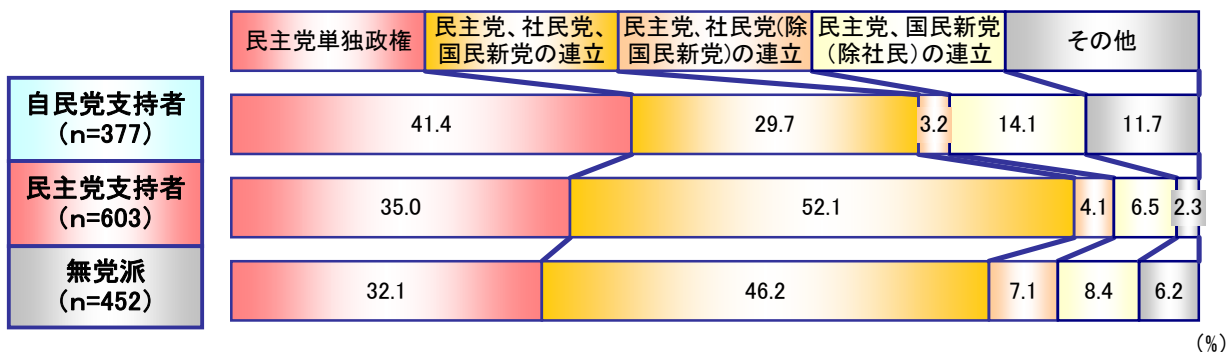
小選挙区の選挙における投票



比例区選挙における投票

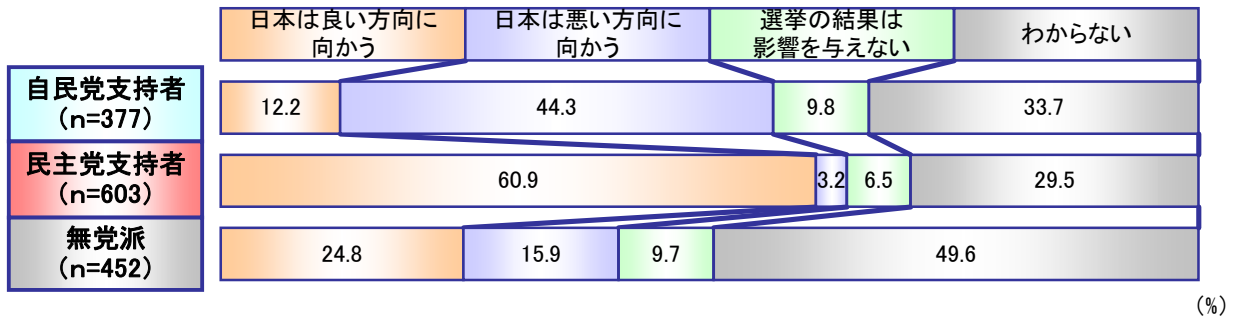


衆議院選挙後の理想の政権のあり方は？ <支持政党別>



Ⅲ. 今後の日本の将来と政府に期待する政策

今後の日本国の将来について<支持政党別>



政府に取り組んで欲しい一番の問題は？<支持政党別>

	自民党支持者 (n=377)	民主党支持者 (n=603)	無党派 (n=452)
景気・雇用対策	54.9 ①	45.6 ①	49.1 ①
財政再建	13.0 ②	10.8 ③	11.1 ③
税制改革・消費税問題	4.5	2.5	2.7
社会保障制度改革	11.7 ③	19.2 ②	18.1 ②
少子化対策	3.4	10.4	5.3
教育改革	0.3	0.8	0.9
公務員削減など行政改革	1.9	7.5	7.1
所得などの格差問題	0.8	1.7	0.9
靖国神社問題	0.5	-	-
中国や韓国とのアジア外交	0.3	0.2	-
北朝鮮問題	1.1	-	0.4
防衛・安全保障	4.8	0.2	0.4
憲法改正	0.5	0.2	0.4
防災など危機管理	0.8	0.2	0.2
治安・犯罪対策	0.5	0.3	0.9
環境対策	0.3	0.2	0.7
食品安全対策	-	-	-
この中にはない	0.8	0.3	1.8

①～③は順位

(%)

IV. <参考> 今回の選挙の情報源と最高裁判官への新任投票について

今回の選挙に関する情報源は？

	自民党支持者 (n=377)		民主党支持者 (n=603)		無党派 (n=452)	
	MA	SA	MA	SA	MA	SA
新聞	71.9 ②	33.7 ①	74.1 ②	33.8 ②	67.7 ②	32.3 ②
雑誌	10.3	2.1	12.9	1.2	6.9	0.4
TVのニュース	80.9 ①	33.2 ②	89.4 ①	42.0 ①	86.7 ①	40.0 ①
ニュース以外のTV	28.1	5.0	31.3 ③	6.6 ③	26.5	5.3 ③
インターネットのニュースサイト	34.2 ③	5.0	30.5	5.5	28.1 ③	5.3 ③
インターネットのポータルサイト	24.1	4.5	26.5	4.1	26.3	5.3 ③
政治関係や候補者・支援者のHP	14.3	4.8	12.4	2.0	13.3	2.4
コミュニケーションサイト	13.3	5.3 ③	3.5	0.7	4.6	1.3
ブログやSNS	5.8	0.8	3.3	0.3	3.8	0.7
友人・知人などを通して	19.4	3.2	13.3	2.3	15.0	2.7
その他	3.4	2.4	2.5	1.5	5.1	4.2

①～③は順位

(%)

最高裁判官への信任投票について<支持政党別> 投票(期日前含)に行った人対象

	評価した上で 投票した	特に評価はせず 投票した	信任投票制度を 知らなかった
自民党支持者 (n=347)	26.5	69.5	4.0
民主党支持者 (n=578)	28.0	67.0	5.0
無党派 (n=347)	29.7	66.0	4.3

(%)

■NRC 自民VS民主 政党支持率追跡調査 実施概要

1. 調査の狙い

衆議院総選挙までの期間、有権者の支持政党の推移変動を把握するとともに、その変動要因となる政治的動向(政治家の発言、不祥事、政策の発動、外交活動等)や社会的事件の影響度を検証する。

2. 調査フレーム

- ◆日本リサーチセンターのCyberPanel会員(ネットパネル)に対して、支持政党や政治的トピックに関する受け止め方についてネット調査を定期的に行う。
- ◆特定対象者(同じ対象者に対して調査を依頼し回答してもらう)に対する、追跡調査(衆議院選挙までの期間、実施予定)とする。
- ◆第1回目の調査依頼時点では、対象者の割付を、自民党支持、民主党支持、無党派で同サンプルに設定(500s×3グループ)することで、その後の追跡調査での支持政党のシェア変動をより明確にする。

[追跡調査実施までの手順]

Step1: 初回の追跡調査に先立ち、事前調査(3/6~12迄実施)で回答者のその時点の支持政党を把握する。

Step2: 事前調査の回答に基づき、自民党支持、民主党支持、無党派の3グループを作成する。

1つのグループが以下の割付となるよう、調査の発信・回収管理を行う。

Step3: 3月第4週(第1回調査)から隔週で定期的にネット調査での追跡調査を開始。

●1グループあたりの割付表(性別×年代 1セル50サンプルでの均等割付)

	20代	30代	40代	50代	60代	計
男性	50	50	50	50	50	250
女性	50	50	50	50	50	250
計	100	100	100	100	100	500

※1. 1グループあたり500s、自民支持層、民主支持層、無党派層の3グループ(事前調査時点の回答による)で合計1500sを回収目標とする。

※2. 各属性の割付セルで回収にバラつきが生じた場合は、上記割付数を基準にして各属性毎の割付が同比率になるように補正を行った。

3. 実査の概要

- ◆調査対象者
日本リサーチセンター・CyberPanel(ネットパネル)
- ◆回答方法
依頼メールを対象者に送付し、対象者はWeb上のアンケートサイトにアクセスの上、回答をする。
※下記調査期間中は、定員による締切を設定せず、いつアクセスしても回答できる状態としている。
(回答する時間帯による、回答バイアスを防ぐため)
- ◆対象者属性
・首都圏一都三県(東京、神奈川、千葉、埼玉)居住者
・20~60代の男女(市場調査・マスコミ業者、政党関係者を除く)
- ◆日程
第1回調査 2009年3月13日(金)~17日(火)
第2回調査 2009年3月27日(金)~30日(火)
第3回調査 2009年4月10日(金)~14日(火)
第4回調査 2009年4月24日(金)~28日(火)
第5回調査 2009年5月15日(金)~19日(火)
第6回調査 2009年6月12日(金)~16日(火)
第7回調査 2009年7月10日(金)~14日(火)
第8回調査 2009年8月7日(金)~11日(火)
第9回調査 2009年9月1日(火)~4日(金)

■問合先

株式会社日本リサーチセンター・デジタルリサーチデザイン開発チーム
URL <http://www.nrc.co.jp/>
Mail drdd@nrc.co.jp
Tel 0120-318-339
担当者 笹田、鈴木、小牧、伊東

■要約版について

弊社HPにて、リリース版よりも詳細データを整理した要約版もご用意しております。
<http://www.nrc.co.jp/report/090910.html>